

### 3 登下校の安心・安全について

質疑事項	回 答
学校から駅にかけて、街灯を増やしてほしい。本校は三部制であるため、登下校時間が夜間になる生徒も多くいる。また、一人ひとりが異なる時間割で生活しているため、暗い夜道を一人で登下校する生徒も多くいる。学校から矢本駅の区間は比較的人通りの多い区間だが、ぜひ街灯を増やしていただき、本校生徒の登下校時、および地域住民の安心・安全の確保につなげていただければ幸い。	道路には、街灯（皆さんが通っているところにあり、市で整備するもの）と防犯灯（壊れたら地域で直すもの）がある。 市道のをLED化するのには、市の予算が必要。国道や県道は、国や県の予算で行われる。地域の皆さんの安心、安全を考慮し、優先順位を決めて整備されるので、もう少し待ってほしい。

## テーマ2 これから東松島市にはどんなまちになってほしいか

こんなまちになってほしい	回 答
伝統芸能を大切にするまち	文化協会開催での市民文化祭で、絵画、踊り、歌等で参加してほしい。 鳴瀬鼓心太鼓、赤井小学校の太鼓、鹿妻の鹿踊り、大曲獅子舞など。観光の中で、芸能を伝承、継承していくことが課題である。 登米市は、歴史の遺産を大切にしているので、参考にしたい。
運動が気軽にできるまち	仮設住宅が建設された矢本運動公園は、震災前のように元通りにする方針。 鷹来の森運動公園、そして、これからであるが、野蒜の西側に大きな運動公園ができる。また大曲浜に海浜緑地公園が来年度オープンする。 徐々に公園も整備されてきている。
子育てがしやすく、子どもたちが遊べる場所がたくさんあるまち	現在、保育所の待機児童は20数人。ただ、定員と人数を比べれば、待機児童はいない。来年度、私立保育所を要望すれば、待機はなくなる見込みである。 また防衛省より補助金があるので、18歳までは医療費が無料である。 学童保育は、6年生まで受け入れている。各学校の敷地内、もしくは隣接に学童施設をつくる予定である。遊具も整備している。 今、東松島市は自治会制度になっている。皆さんの意見を大切にしたい。
色々な国の人々が集まるような国際色豊かなまち	外国人観光客、インバウンド対策、観光のまち。 野蒜、宮戸嵯峨溪はダメージを受け、今は50%くらいの復興である。 韓国で平成19年にスタートしたオルレ、日本では九州が最初で12～15km、19コース。観光の名所、物産品を楽しめるコースになっている。市長が韓国と交渉した。宮城には、唐桑と宮戸の2か所である。 10月、最初のコースが始まる。 外国人を受け入れるハード面だけでなく、ソフト面を市民の皆さんに理解いただき、リピーターを求めるようにしたい。歩いて物産品を買っていただき宿泊していただく。 震災後、国際交流協会の活動は止まっているが、再活動させなければならない。 皆さんの意見を受け止め、しっかり市へ届ける。
(オルレについて再質問) トレッキングが気になった。誰でも参加できるのであれば、行ってみたい	先日、体験があった。無料で誰でも参加できる。
(オルレについて再質問) 昼食は歩きながら食べるのか	ハイキングのような気分で、自分で弁当を持参すれば一番いいかもしれない。 皆さん、宮戸島って知ってる？ JRを野蒜駅で降りる。6km歩き、宮戸の内側から見る。または船で外側から見る。4つの地区がある。 10月8日、東松島オルレはスタートする。 年齢が進めば、歩く機会を増やす必要がある。学校の授業の一貫でよい。嵯峨溪遊覧を一度計画してみれば、と先生方に要望してみてもどうか。

#### 開会あいさつ（小野幸男 広報常任委員長）

矢本高校から東松島高校と改名されたが、私は実家も近くにあり、幼少のころから思い入れのある学校です。高校生がこのまちをどう思っているのか、皆さんの活発なご意見をお願いしたい。

#### 閉会あいさつ（櫻井政文 広報常任副委員長）

生徒の皆さん、そして先生方も活発なご意見ありがとうございました。  
コミュニティ、大運動会、盆踊り等、目立つまちづくり、皆さんには演劇で名を売ってほしい学校になってほしいです。もっともっと議会を知ってほしいので、議会開会中は、傍聴にも来てほしいです。



▲櫻井政文副委員長より、市議会の役割について分かりやすく紹介しました



▲小野幸男委員長が開会あいさつし、会場の雰囲気を和やかにしました  
東松島市議会だより No.50